

大王、铂レマイオス、クレオパトラの墓は見つからず

ペルシャ帝国を打ち破ったアレクサンドロス（3世）はバビロンで客死する。大王の遺言は「最強の者が帝国を継承せよ」というものであった。皮肉にもこの言葉は熾烈な内部抗争



（大王は地元の領主に支配を任せた）

を行った者が次なる後継者とされていたからである。取り戻そうと追いかけてきた者たちには、人形に大王然とした豪華なペルシャ風の衣装を着せたものを用意し、騙して引き返させたという逸話が残っている。铂レマイオスはアレクサンドロスの東西折衷の遺志を継ぎ、エジプトの宗教に従い、ファラオとして君臨した。このようにして生まれたヘレニズム時代では公用語としてギリシャ語が用いられ、狭いポリス的観念から、コスモポリタニズム（世界市民主義）の思想が広がって行った。

の始まりとなる。骨肉の争いの中で、マケドニア王家の血を継ぐ者はことごとく非業の死によって途絶え、有力者が戦いに勝つことで、自ら王を名乗るようになって行った。

その中で铂レマイオス1世がエジプトを支配する。彼は策略により大王の死体を奪い、馬車でエジプトへ運んだ。なぜならマケドニアの風習では、前王の埋葬



（アレクサンドリアの遺跡）

世界古代文明の謎を探るシリーズ（104回）「ヘレニズムがもたらしたもの」

主 催 アストライアの会

協 力 日本ギリシャ協会 日本セカンドライフ協会

講 師 佐藤育子さん 日本女子大学学術研究員

期 日 令和8年2月21日（土）午後2時～5時

会 場 としま区民センター会議室401（池袋駅東口）

費 用 お茶代込み参加費二千円

連絡先 松原和雄 TEL/FAX 049-258-3218

